

大阪市総合教育センター
教育振興担当 実践研究グループ
首席指導主事様

| | |
|---------------------|-----|
| 研究コース | |
| B グループ研究B | |
| 校舎コード (代表者校舎の市費コード) | |
| 691543 | |
| 選定番号 | 201 |

| | | |
|-----|--------|--------------|
| 代表者 | 校舎名: | 大阪市立今福小学校 |
| | 校舎長名: | 柳井 友裕 |
| | 電話: | 06-6933-3412 |
| | 事務職員名: | 更谷 亜希 |
| 申請者 | 校舎名: | 大阪市立今福小学校 |
| | 職名・名前: | 校長・柳井 友裕 |
| | 電話: | 06-6933-3412 |

令和7年度 「がんばる先生支援」報告書

◇「がんばる先生支援」について、次のとおり報告します。

| 1 | 研究コース | コース名 | B グループ研究B | 研究年数 | 継続研究 (3年目) | | | | | | | | | | | | |
|----|------------------|---|-----------|------|------------|----|-----------------|------|--------|----|-----------|--|--|----|--|--|--|
| 2 | 研究テーマ | 体力・運動能力の向上は、授業改善から 一なわとびの授業から体育授業を変えるー | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | 研究目的 | <p>○体育科授業の実際と課題 体育科には教科書がない。結果、体育科授業は、教師自身が学齢期に受けた授業を基にした内容になりがちである。最たる例が、なわとびを使った授業である。児童は学習カードに載っている跳び方を自分(一人)で取り組む。得意な児童は意欲的に取り組むが、そうでない児童はできないまま時間を過ごす。体育科授業も「主体的・対話的で深い学び」を標榜し、変わらなければならない中であっても昭和・平成時代と変わらない授業、体力・運動能力の二極化が放置されている。</p> <p>○「関わり合い」を中心に据えたなわとび指導計画開発と研究発表会並びに研修会の実施 新しい令和の学びを創り出すために、「関わり合い」=「対話的な学び」を中心に据えたなわとび運動の指導計画開発を行う。授業公開・研究発表会を通じてその教材の良さを明らかにし、さらに実技研修会を通じて教員一人一人が実際に授業で行えるようにすることで、大阪市全体の体育授業指導力向上、児童の体力・運動能力の向上を図る。</p> | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4 | 取り組んだ研究内容 | <p>いつ、何のために、どのようなことを実施したのかを具体的に記載してください。(MSコシツク 9.5キント)</p> <p>まずは、研究計画を元に1年の活動を振り返る。 5月 【研究企画会】中・高学年の単元を振り返り、低学年の単元開発の方向性を「まねっこ、2in2の要素を取り入れる。」に決定。 6月 【指導計画検討会】低学年指導計画(案)の検討① 並びに、7月に実施するなわとび実技研修会で発表する運動会用演技2本について検討。 7月 【指導計画検討会】低学年指導計画(案)の検討② なわとび実技研修会を実施 8月 【研究会参加】第29回体育授業研究会熊本大会参加(2名) 【研究会報告】第69回全国小学校体育科教育研究集会豊田大会参加、研究発表(3名) 体づくり領域部会で研究発表を実施。 10月 【実技研修会検討会】実技研修会の内容の検討① 【研究会参加】全国学校体育研究大会北海道大会参加(1名) 12月 【研究会参加】横浜国立大学附属横浜小学校研究会参加(1名) 12月24日【実技研修会】港区港晴小学校(20名) 住吉区苅田南小学校(30名)で実技研修会実施 1月30日【授業公開・研究発表会】 島屋小学校にて2年生授業公開・研究発表会・実技研修会実施(参加者25名) 2月 【研究会参加】広島大学附属小学校教育研究会参加(1名) 筑波大学附属小学校教育研究集会参加(2名) 【研究企画会】1年のまとめ 「がんばる先生支援」報告書作成・提出</p> <p>今年度は低学年(2年生)の単元開発を行った。1年目に高学年(5年生)、2年目に中・高学年(3年生と5年生で授業公開)の単元開発を行い、これで低中高、小学校での単元開発を完成させることができた。実技研修会もこれまで実施できていなかった2区(港区、住吉区)で実施し、この3年間で計12区で実技研修会を行った。</p> | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5 | 研究発表等の日程・場所・参加者数 | <p>研究発表等を実施した日・場所・参加者数を記載してください。</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>日程</td> <td>令和 8 年 1 月 30 日</td> <td>参加者数</td> <td>約 25 名</td> </tr> <tr> <td>場所</td> <td colspan="3">大阪市立島屋小学校</td> </tr> <tr> <td>備考</td> <td colspan="3"></td> </tr> </table> | | | | 日程 | 令和 8 年 1 月 30 日 | 参加者数 | 約 25 名 | 場所 | 大阪市立島屋小学校 | | | 備考 | | | |
| 日程 | 令和 8 年 1 月 30 日 | 参加者数 | 約 25 名 | | | | | | | | | | | | | | |
| 場所 | 大阪市立島屋小学校 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | |
|---|-------|--|
| 6 | 成果・課題 | <p>大阪市教育振興基本計画に示されている、「子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓く力」の育成および「教員の資質や指導力」の向上について、申請書に記載した検証方法から得られた結果と、それらからの結果に基づいた考察を、具体的に記載してください。</p> |
| | | <p>【見込まれる成果1】</p> <p><input type="checkbox"/> 「子どもが心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓く力」の育成</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 「教員の資質や指導力」の向上</p> <p>これまでのなわとび指導から脱却し、「主体的・対話的で深い学び」に根差した令和の体育授業指導力を身に付けることができる。それをスタートとして、体育科授業力全体の向上を図る。</p> <p>≪検証方法≫</p> <p>参加者アンケートを実施し、「本日のなわとび研修会で、自分の知識を深めたり、新たな発見をしたりしましたか。」の項目について、肯定的な回答を95%以上にする。</p> |
| | | <p>[検証結果と考察]</p> <p>授業公開と実技研修会の際に行ったアンケート結果（回答数59）より、肯定的な回答は、100%（最も肯定的な「思う」が59で100%）であった。</p> <p>多くの参加者が、なわとびの授業自体をしていない、つまりカードを渡して個人的な努力に任せる授業を行っている実態がある。今回提案した二人でのなわとびは、初めて目にするものであり、新たな発見に結びついたと考える。</p> <p>参加者の感想を一部紹介する。『「技術を高めるなわとびの授業」をちょうど今1年生にやっていました。「絶対、きずなわの方が面白いやん!」と感銘を受けました。』『今回の公開授業と、研修を通して「なわとびひとつでこんなにもつながれるんだ」「こんなに、技を組み合わせることができるんだ」と思いました。』</p> |
| | | <p>【見込まれる成果2】</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 「子どもが心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓く力」の育成</p> <p><input type="checkbox"/> 「教員の資質や指導力」の向上</p> <p>「関わり合い」を取り入れた授業を行い、動きを合わせる調整力や共有したことを行う協調性を育む。</p> <p>≪検証方法≫</p> <p>授業後に児童アンケートを実施し、「友だちと関わることで、同じ動きをしたり考えを共有したりすることができましたか?」の項目について、肯定的な回答を90%以上にする。</p> |
| | | <p>[検証結果と考察]</p> <p>今回授業を行った2年生の回答は、95%で目標とする90%を達成した。</p> <p>今回の授業内容に、友だちの動きを真似したり、一緒にシンクロしてなわを跳んだり、2本の縄と一緒に回して跳んだり、友だちと関わって行う運動要素を多く盛り込んだことによりこのような肯定的な回答につながったと考える。</p> |
| | | <p>【見込まれる成果3】</p> <p><input type="checkbox"/> 「子どもが心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓く力」の育成</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 「教員の資質や指導力」の向上</p> <p>本研究が、大阪市教員の指導力向上に寄与し、大阪市児童の体力の向上の一助となる。</p> <p>≪検証方法≫</p> <p>参加者アンケートを実施し、「本日のなわとび研修会で得た知識や気づきは、今後の実践に活かすことができそうですか。」の項目について、肯定的な回答を95%以上にする。</p> <p>[検証結果と考察]</p> <p>授業公開と実技研修会の際に行ったアンケート結果（回答数59）より、肯定的な回答は、100%（最も肯定的な「思う」が57（96%））であった。</p> <p>研修会の内容について、今回授業公開した2年生の実践を追体験できるものに工夫をしたことにより、実際の授業にそのまま生かせるようにしたことがこのような100%という結果に結びついたと考える。</p> <p>参加者の感想を一部紹介する。『今までとばせるだけのつまらない授業をやっていたなと反省しました。ぜひ自分が担当している子供たちにもやってあげたいと思いました。』『授業参観+実技研修+講話という今回の研修会は、体育としてはベストだと思います。ぜひ今後もこの形で研修を開催してください。可能な限り校内の職員を連れてこようと思います。今日の研修は、持ち帰り、広めていきます。』</p> |

| | | |
|---|-------|--|
| 6 | 成果・課題 | <p>【見込まれる成果4】</p> <p><input type="checkbox"/> 「子どもが心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓く力」の育成</p> <p><input type="checkbox"/> 「教員の資質や指導力」の向上</p> |
| | | <p>《検証方法》</p> |
| | | <p>〔検証結果と考察〕</p> |

| | | |
|---|---------------|--|
| 6 | 研究全体を通じた成果と課題 | <p>【研究全体を通じた成果と課題】 研究発表会等で使用した資料や研究冊子から引用し、端的に記述してください。</p> |
| | | <p>1. 新規研究（1年目） ※継続研究2年目以降は1年目の記載をコピーして貼付する</p> <p>全国規模の研究会での実践発表1本と授業提案1本の実施、そこで得た知見を踏まえ検討し実施した5会場での実技研修会実施と活動量の豊富な一年であった。特に研修会に参加される先生方の姿、アンケートで寄せられるご意見から我々の「きずなわ」の取組に対するニーズの高さを実感した。また、2月に筑波大学附属小学校研究会に参加したことにより、体育科授業に関する全国レベルでの取組を知ることができた。</p> <p>研修会の在り方を「実際に単元を通して体験する」形にしたことで、授業イメージがしやすくなり、参加者の実践意欲につながった。今年度は5年生での単元提案であったので、来年度は低中学年での単元開発を行いたい。3年間の研究で低中高と小学校6年間を見通したカリキュラム開発を目指す。また、筑波大学附属小学校研究会をはじめ、全国規模で実施される研究会へ今後も積極的に参加し、今求められている体育科授業を学び続けることで、研修会の質的向上を図っていくことも継続していきたい。</p> |
| | | <p>2. 継続研究（2年目） ※継続研究3年目の場合は、2年目の記載をコピーして貼付する</p> <p>2年目の本年は、実際にきずなわの「授業」を公開することで、参会者のきずなわ授業の「実際」を理解していただくこととした。さらに昨年に引き続き5会場での実技研修会を実施し、授業公開&実技研修会で合わせて182名の先生方にきずなわの理解を深めてもらうことができた。昨年度課題とした、中学年の授業も公開でき、中・高学年のきずなわ単元が完成した。来年度については、低学年のきずなわ単元の開発を行い、6年間を見通したカリキュラムの完成を目指したい。</p> <p>また、今年度も全国規模の体育科研究大会に参加し、最新の体育授業について見識を深めることができた。これからも体育科の学び方についての研究を深め、なわとびにおける「主体的、対話的で深い学び」の実現に向けて研鑽を積んでいきたい。</p> |
| | | <p>3. 継続研究（3年目）</p> <p>今年度低学年のきずなわ単元開発を行い、3年間かけて低中高のカリキュラムを完成させることができた。また、今年度も授業公開1回と実技研修会を3回行い、80名を超える教員に参加していただくことができた。アンケート結果から、3学期からのなわとびの授業に生かすコメントも多く見られ、3年連続で実技研修会に参加された教員もいるようである。この3年間で約400人以上の教員がこのきずなわを通じてなわとびの授業を実践する中で、体育授業についても問い直し、授業改善してきている。われわれが掲げた「なわとびの授業から、体育授業を変える」は着実に大阪市の教員に浸透してきていることが成果である。課題としては、このムーブメントをこれからも継続していくことであり、まだ大阪市24区中12区で研修会が実施できていない。我々自身もさらなる体育授業改善に励み、それを大阪市内に還元する取組を継続していきたい。</p> |
| | | <p>《代表校園長の総評》</p> |
| | | <p>1. 新規研究（1年目） ※継続研究2年目以降は1年目の記載をコピーして貼付する</p> <p>運動場から眺めるなわとびの授業風景は、1年前と比べ少し変容していた。研修会で指導していただいたようにはいかないまでも、授業をよくしたいという教師の願いが少しではあるが、授業を改善させたのではないだろうか。5か所での実技研修会には、140名もの教師が参加し、嬉々として研修に取り組んだ。今は小さな流れではあるが、2年目、3年目とその取り組みを広げることで、本校で見られる体育授業の変容が大阪市全体の小学校で見られるのではないだろうか。</p> |
| | | <p>2. 継続研究（2年目） ※継続研究3年目の場合は、2年目の記載をコピーして貼付する</p> <p>研究2年目の参加者数は、前年を40名以上上回る182名となった。アンケートのコメントからも着実にこのきずなわのよさを理解し、体育科授業を変えていこうとする教員の存在の広がりを見ることができる。来年度は、低学年の単元開発に取り組むとのことで、これで6年間にわたるきずなわカリキュラムが完成する。どの学年の担任でも研修を受ければ、実践につながるの、より多くの参加者が期待できるのではないだろうか。教員が自信を持って体育科授業が行えるよう今後もサポートしていきたい。</p> |
| | | <p>3. 継続研究（3年目）</p> <p>まずは、低中高のきずなわカリキュラムが完成したことを評価したい。この3年間で400人を超える教員がこのきずなわを通じて体育科授業改善に取り組んだことも大きな成果である。このきずなわメンバーについては、大阪市小教研体育部でそれぞれ体づくり運動、器械運動、ボール運動と異なる領域に属している。来年度以降についても、このきずなわのメソッドを「なわとび以外」の領域の体育科授業で展開する構想を持っているようである。きずなわの実技研修会も今後も継続しつつ、新たな領域での「関わり合いを中心にした」授業開発に期待したい。</p> |